

整理番号	23-29	事務事業名	(母子保健推進事業) フッ化物塗布事業		作成部署	保健福祉部健康管理課	電話	内線808
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村 弘志	課長職名	細川 和夫	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H10	根拠法令等	地域保健法に基づく都道府県および市町村における歯科保健業務指針					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	道単独事業で千歳保健所が実施していたが、道事業が廃止されることになり、市の単独事業でスタートした。							

**1 計画(プラン)**

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	健康と医療	(第1節)
	施策	保健予防の推進	(第2施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	1歳～就学前の幼児	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	フッ化物塗布によるむし歯予防および歯科保健指導により生活習慣改善がされること。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容)	16年度まで	市内2会場で年12回実施。対象 1歳～就学前まで(6か月間隔で塗布) スタッフ:市内歯科医師、市保健師1、非常勤歯科衛生士3、臨時事務1 対象年齢により、無料又は有料としていたが、平成14年度より一律一回300円の利用料を徴収している。
		17年度	利用料一回500円

**2 実施(ドウ)**

**【事業費の推移】**

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	289	270	400	委託予定 -
	一般財源	747	646	646	1,680
	合計	1,036	916	1,046	1,680
人件費(概算)	人数(年間)	0.10	0.10	0.10	0.05
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	900	900	900	450
総事業費 +		1,936	1,816	1,946	2,130

**【事務事業を評価する指標(ものさし)】**

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	実施回数	12回	12回	12回	委託(個別塗布)通年
	受診実数	698人	661人	530人	800人
	受診延数	965人	900人	800人	1,200人
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	受診率(市実施分)	59.6%	49.2%	50.0%	80.0%
	受診率(市と他機関実施合計)	82.5%	81.0%	85.0%	85.0%
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	受診者一回一人当たり経費	2,034円	2,018円	2,433円	1,775円
	(総事業費 / 市実施の受診延数)				

**3 評価(チェック)と改善(アクション)**

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	歯科保健への関心は社会的に高まっている。ほとんどの市町村でフッ素塗布を実施している。
---------------------------------	--

**【妥当性の評価と改善の方法等】**

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	母子歯科保健のうちむし歯予防は、大きな位置をしめる。行政が一部関与して進める必要がある。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	フッ素塗布はむし歯予防に有効な手段であることが明確であり妥当。現状は適切だが対象設定は今後再検討する可能性有り。	対象年齢、回数について妥当かどうか検討する。
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	地域で都合の良い時間に受けることができるよう、市内歯科での個別塗布を検討する。	事前に利用者の意見を聞く。16年度前半にアンケート実施したが、17年度も実施し検討資料とする。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	現行の集団塗布では適切な負担であるが、個別の場合は再検討が必要。	個別塗布の場合は利用者の利益が大になるので自己負担増の検討。

**【有効性と効率性の評価と改善の方法】**

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	フッ素塗布はむし歯予防に有効な手段であることが明確であり塗布者が増加することでより社会的効果がある。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	塗布だけでなく、乳児期から歯科衛生士による保健指導を行っており、総合的に取り組んでいる。ただ集団接種のため、実施会場や開催回数が少ない。	市民の受けやすさのために、医療機関委託による個別接種を検討。コスト面も再検討。

**【事務事業担当部局内優先度】**

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A      B      C

**4 総合判定と今後の方向性**

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	コスト面を含め、個別塗布の検討をする。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	集団塗布から、利便性向上のための身近な地域でいつでも受診できる市内歯科医院個別塗布への転換については、利用料金の値上げによる受診率低下の可能性もあることから、費用対効果を充分検討する。